

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	
施 設 名	横浜みなとみらいホール	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	7,884	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	7,884 (千円)

1. 事業概要

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	横浜みなとみらいホール OPEN DAYS 「みなとみらい遊音地」	8月4・5・9・10・11 日	[出演] 横浜シティオペラ、三原麻里、横田宗隆、近藤岳、ハマのJACK、工藤重典等	目標値	2,380
		大ホール 小ホール他		実績値	4,605
2	パイプオルガンと横浜の街 2023	9月23日-10月26日	[出演] 三浦はつみ、近藤 岳、新妻由加、金成佳枝、中田恵子、三原麻里、徳岡めぐみ	目標値	1,200
		大ホール 横浜市内教会他		実績値	934
3	ミュージック・イン・ザ・ダーク	3月20日	川島成道、岡本誠司、南 紫音、特別編成合奏団	目標値	350
		小ホール		実績値	396
4	Just Composed 2024 in Yokohama —現代作曲家シリーズ—	3月2日	山澤慧、有馬純寿、北爪裕道	目標値	250
		小ホール		実績値	193
5	音と光の動物園	11月23日	東京藝術大学演奏芸術センター開講授業「障がいとアーツ研究」受講生、東京藝術大学アーツ・スペシャル合奏団	目標値	40
		レセプションルーム、小ホール		実績値	40
6	学校アウトリーチプログラム	10/10・11・16、 12/4、1/16・17・19、 24、2/19-21、27	山田英津子、前田勝則、外山香、アンセットシス、近藤岳	目標値	250
		横浜市内小中学校		実績値	1,007

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>■ミッション・ビジョン</p> <p>横浜市における文化政策の基本方針である「市民の文化活動の支援」、「次世代育成」、「創造性を活かしたまちづくり」、「先進的な文化芸術の国内外への発信」に基づき、横浜みなとみらいホールでは、以下の基本方針の元に、事業を展開しました。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、国内外から高い評価を受ける創造・創作の拠点となる。(2) 市民や文化団体の音楽活動を支え、音楽専門ホールとしての活動の場を提供する。(3) 次世代を担う芸術家や音楽と社会をつなぐ人材を育むと共に、音楽に親しむ市民の裾野を広げる。(4) 年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的状況にかかわらず、あらゆる人々が音楽に触れる機会を創出する。(5) 利用者の視点に達、持続可能性を高める施設運営を行い、地域社会に貢献する。 <p>■事業計画の組み立て・実施状況</p> <p>上記の5つの方針に則した事業展開に加え、令和5年度は横浜みなとみらいホール開館25周年の節目の年にあたり、25年間培った地域の中核施設としての役割を明確化し展開することを重視し、事業を計画しました。また、2021年から2022年の大規模改修工事、コロナ禍を経て、数年ぶりに通常営業となる年として、あらためて、地域のステークホルダーとの関係性の網み直しを行いました。</p> <p>新型コロナ等の影響のなくなった令和5年度は、出演者の怪我により中止の公演が1公演あったものの、25周年記念事業等、年度当初計画から事業数は増加となりましたが、全事業を計画通り実施・完了しました。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>■文化的意義</p> <p>次代を担う子どもたちやアーティスト、演奏会等に携わる人々相互のつながりを深めることで、今後の文化・芸術の水準向上につながるような取組みを様々に展開しました。新作委嘱と初演・再演を行う「Just Composed in Yokohama」では、作曲家に機会をもたらすのみならず、演奏家や鑑賞者に現代の表現に触れてもらい、新しい音楽を創造する意義を伝える機会となりました。</p> <p>■社会的意義</p> <p>地域社会に対し、身近な場所で誰もが音楽を体験できる場を提供することに努めました。0歳から参加可能なコンサートやインクルーシブ事業に取り組み、ソフト面・ハード面両面でのアクセシビリティの向上を行っています。また、教育委員会との連携により教育現場のニーズに応える事業も積極的に実施しています。「パイプオルガンと横浜の街」など、自分たちの街の歴史を知り、誇りを感じられる機会の創出にも取り組んでいます。</p> <p>■経済的意義</p> <p>本助成対象事業である「普及啓発」事業は主催者としては収益化が困難であるが、一方で教会、地域の支援団体、障がいのあるアーティストなど、収入を得ることの難しい関係者へ労働賃金をもたらすことができました。横浜・みなとみらい21地区の地域性を活かした近隣宿泊・商業施設との連携施策等、地域との協力体制の構築からは、地域の中核劇場として、街の賑わい創出のみならず、経済波及効果を生み出しています。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

目標については3項目を設定、指標については、計9項目設定し、約8割の項目で達成、概ね達成となりました（下記一覧表参照）。

また、実績としては未達成でも事業内容からは適正な人数だったと思われる事業や、アンケートの回収率が影響をした事業もあり、今後の指標の検討が必要なものもありました。（公演事業：中学生プロデューサーの人数等）一方、今後も引き続き達成を目指す指標も再認識しました。

（No. = 事業番号 / 実績：達成○・概ね達成△・未達成×）

【目標1】 新たな音楽の価値を創造し、次代へと継承します。

	No	指標	実績	
①	4	入場者数 250 人以上	193	△
②	4	来場者アンケートで事業内容の満足度 4.5 以上（5 点満点）	4.16	×

「Just Composed in Yokohama」は広報等の露出で集客の後押しをしましたが、入場者数は未達成となりました。満足度も未達成となりましたが、アンケート回収数が13件と低かったため、信憑性が低く、今後の指標設定には注意が必要です。

【目標2】 より多くの人が身近な場所で音楽に触れ、音楽を親しむ市民のすその広がるよう、地域施設や学校での音楽鑑賞・体験の場を提供します。

	No	指標	実績	
③	1・2	のべ入場者数 3,000 人以上	4,605 人	○
④	2	パイプオルガン事業の連携施設 5 施設以上	6 施設	○
⑤	6	アウトリーチ学校数 4 校以上	5 校	○

ホール内外で取り組んだ夏休み時期の OPEN DAY や学校アウトリーチでは、目標以上の成果を上げることができました。

【目標3】 障がいの有無にかかわらず誰もが楽しさを共有できる音楽の魅力を伝え、心が豊になる体験の場を提供します。

	No	指標	実績	
⑥	3・5	事業番号3 鑑賞ガイド、事業番号5 参加者数計 60 人以上（介助者含む）	54 人	△
⑦	3・5	来場者・参加者のアンケートで、事業内容の満足度 4.7 以上（5 点満点）	4.93	○
⑧	3	障がいのある方への入場者割合：入場者数の 20%	5.8%	×
⑨	6	学校の課題等確認、実施事業打合せ・下見 6 回以上	実績 9 回	○

「ミュージック・イン・ザ・ダーク」事業では、同じ週に無料招待でのインクルーシブ事業を設定したことから、当事者の入場者数が未達成となりました。一方で、「音と光の動物園」事業では、応募が2倍となり抽選になりました。打ち合わせや下見を重ね、満足度の高い公演を制作しました。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■経営責任者である総支配人、芸術監督である館長、チーフプロデューサーを中心に方針を決定し、制作担当と対話を重ねながら事業制作を行っています。会議における報告、共有により、事業期間は適切に管理され、令和5年度事業は概ね計画通りに進行しました。

■一方で市の方針変更による予算減等の事情により、年度に入ってから実施規模の変更等を余儀なくされた事業もありましたが、計画の変更に柔軟に対応しました。

■個別の事業について

・夏休みのOPEN DAYS企画「みなとみらい遊音地」では、間に2日の他公演を挟み、2日・3日の計5日公演でしたが、お客様への広報効果を鑑み、次年度は組み立てを見直し、他公演を挟まぬ形での連続実施を検討します。

・インクルーシブ事業については、関係者も多く手間や時間がかかるため、早期から着手し丁寧に準備を重ね、安心して当事者を含むお客様をお迎えすることができました。

・現代音楽の新作委嘱事業「Just Composed in Yokohama」は委嘱作曲に要する時間を鑑み、通常事業よりもかなり早く進行しましたが、曲の仕上がりが予定から大幅に遅れたことは、集客にも影響しました。

■要望時に日程・内容未定となっていた事業「学校アウトリーチプログラム」「パイプオルガンと横浜の街」は、先方の都合により新年度になってから調整を進めることとなっていたましたが、協議の上、双方納得のいく形で実施することができました。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■令和5年度対象9事業は、要望時19,275千円、決算時17,238千円、予算決算差異2,037千円(89.43%)となりました。

■市の方針変更による事業予算減額を受け、約90%の事業費での実施となりましたが、実施にあたっては、交付申請時に経費の精査を行ったものが多く、当初計画の趣旨に齟齬が生じることがないように事業実施の効果が最大化するよう取り組みました。

■個別の事業の推進にあたっては、広告宣伝方法の再検討による広報費の見直し、発注方法の検討、外部資金の獲得などを行いました。

■横浜みなとみらいホールの指定管理者である横浜市芸術文化振興財団は、公益法人としての会計基準等に従い、経費執行は透明性の高い基準で行われています。施設の運営にあたっては、横浜市との政策協働型で、協議の元、計画を実行しています。新型コロナ等やむを得ない変更が生じた場合には、必要に応じた手続きのもと計画を変更し、事業を遂行しています。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

横浜市唯一のクラシック音楽専門ホールとして、ホールの内外で、音楽に親しむ層の拡大や、音楽の新たな価値を創造する拠点としての機能を発揮する事業を展開しました。

■音楽の新たな価値の創造

日本で初めてパイプオルガンが建造された街・横浜から、オルガンを基軸に市内の音楽施設や教会、大学等をめぐる「パイプオルガンと横浜の街」事業は、5年計画の最終年を迎えました。事業のプロデューサーとして、市内のパイプオルガンの状況を把握し、ネットワークを構築。5年間で約15箇所のパイプオルガンを紹介し参加募集開始日には満席となる市民に愛されるイベントとして認知されたほか、市民の文化資産の掘り起こしにもつながりました。5年間の活動を総括するイベントも実施し、地域の推進拠点としての存在感を示しました。



パイプオルガンと横浜の街
撮影：藤本史昭

また、横浜市が40年にわたり継続してきた「Just Composed in Yokohama」は、新曲委嘱を初演するという、「開港の地横浜」のチャレンジ精神を反映した事業です。一般には馴染みにくいとされる現代曲の新作を開館以来継続して紹介していけるのは、地域で安定的に活動し、顧客を有している当ホールならではの活動といえます。新聞等での露出や、電子音楽等の関係者への周知、NHKFMの全国放送での紹介など、横浜から全国に向けての発信に取り組みました。

■社会包摂の取組み

横浜みなとみらいホールでは、令和2年に東京藝術大学などでインクルーシブアーツ研究を推進してきた新井鷗子が館長に就任。以降、共生社会を音楽で支えることを、活動の柱のひとつに据えています。

「ミュージック・イン・ザ・ダーク」は視覚に障がいのある演奏家と障がいのない演奏家のアンサンブルによる演奏を、会場の照明をすべて消す演出を取り入れ、音に感覚を集中するという公演で、継続的に開催しています。出演者、運営者、鑑賞者すべてが同じ環境を体験し、共生社会を考える機会を創出しています。公演前に視覚に障がいのある方を対象に実施する『鑑賞ガイド』も昨年度に引き続き実施しました。他都市での事業開催にあたり協力を行うなど、拠点としてノウハウの継承を推進しました。

音と光の動物園」は発達障がいのある親子と共に楽しむワークショップです。コミュニケーションや集団生活が苦手な子どもたちのために開発され、クラフトワーク制作と映像技術を使った音楽コンサートで構成されます。当ホールではコロナ前から継続的に実施し、今年度は東京藝術大学「障がいとアーツ研究」受講生との協働で運営しました。市内の支援学級や、民間の支援施設に案内をしたところ、募集の倍の応募があり、満足度も非常に高く、社会的ニーズを実感する事業となりました。

また夏休み時期の「みなとみらい遊音地」では、0歳から参加できる公演や、無料または100円程度で本格的なコンサートを提供する公演など、年齢や性別、国籍、経済的理由を超えて、あらゆる人がホールで音楽を楽しむ機会の創出を行いました。一方、ホールに来場することが叶わない方々に向けた「学校アウトリーチ」では、盲特別支援学校を含む5校計983人の児童に本格的なアーティストによる音楽を届けました。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

横浜市唯一のクラシック音楽専門ホール、みなとみらい21地区「ミュージックシティ構想」における中心的施設のひとつとして、市民が最高の音響で国内外の一流の音楽に触れること、鑑賞や文化活動を享受できる機会を提供することを第一に、地域の文化芸術振興・発展向上に寄与したと考えます。

■横浜市内全域での事業展開

令和5年度は助成金対象事業「パイプオルガンと横浜の街」「学校アウトリーチ」事業に加え、助成金非対称事業に於いても数々のアウトリーチを行い、前年度同様に市内全域を対象として事業を展開しました。

「パイプオルガンと横浜の街」では参加公演を含めたコンサートを6カ所、演奏体験ワークショップを1カ所、トークイベントを1カ所実施。「学校アウトリーチ」では体験授業を3校、鑑賞授業を2校実施しました。教会での公演では“当該会場に初めて来た”との回答者が58%にのぼるなど、本公演を機に演奏会場となった地域を知っていただいた方、身近な施設で気軽に音楽に触れていただいた方など、音楽を通して地域での文化振興にもつながっていると考えられます。

アーティストを地域の学校に派遣して芸術体験の場を提供する「学校アウトリーチプログラム」では、授業の中で本物の音楽体験を提供することで、地域への文化芸術の振興につながるだけでなく、アーティストにとってもアーティストとしての活動を紹介でき、また教えるという貴重な体験になり今後の音楽活動にもつながるものとなっています。

■横浜からの芸術発信

横浜みなとみらいホールの特徴のひとつとして、ホールの開館前から横浜市が実施してきた伝統ある事業の継承が挙げられます。敬遠されがちな「現代音楽」を取り上げ、時代性の反映される同時代の音楽を新作として発表・紹介する「Just Composed Yokohama in Yokohama」はそのひとつです。若手演奏家や作曲家、同時代の音楽など、新しい価値を創造・継承する事業として、1998年の開館以来取り組んでいます。令和5年度は、チェロとエレクトロニクスを主軸にした公演で、新たな価値の創造や音楽の可能性が大きく広がる内容を、横浜オリジナルプログラムとして発信しました。



Just Composed in Yokohama 2023

撮影：藤本史昭

■メディア露出・SNS等

令和5年度は、新聞やウェブメディア等を中心に、2,666件の露出がありました。（対象事業以外も含む）

（内訳／新聞：50件、雑誌：100件、フリーペーパー：61件、ウェブ：3,213件、その他23件）

公演におけるレビューやアーティストインタビューのほか、本助成対象事業である普及啓発活動に於いても、その意義を紹介いただくなど、市民の芸術活動への寄与がうかがえます。

SNS（X旧Twitter、Instagram、YouTube）の総フォロワー数（令和6年3月31日現在）は20,874フォロワーで、地域の文化拠点として認知・期待されているといえるでしょう。

以上の事象から、芸術性の高い公演事業を実施しその成果を国内外に発信すると共に、地域の文化拠点として市民の芸術活動を支援し、活力ある地域社会の構築に寄与していると考えます。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【施設運営】

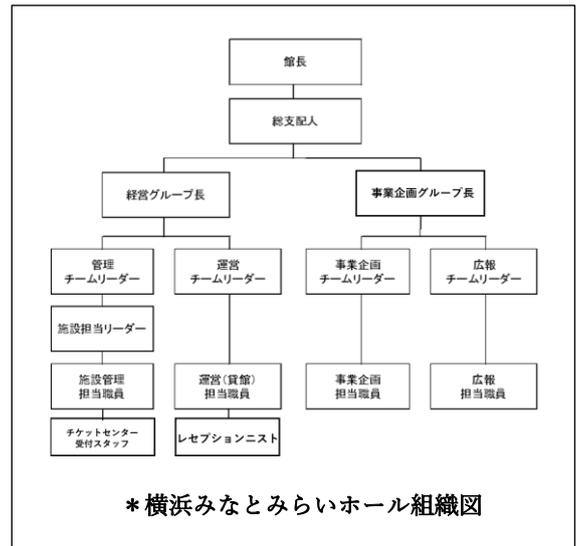
令和4年度から5年間の指定管理期間をひとつのサイクルとして、中長期的および単年の2つの視点でPDCAを行っています。指定管理にあたっては政策協働型により、横浜市と協議を行いながら地域の文化拠点に求められる施設の在り方を検討し、選定評価委員により外部評価を行っています。

■館長・総支配人・事業企画部門

館長が芸術監督的役割を、総支配人が館全体のマネジメントを担い、事業の企画と収支面を統括するチーフプロデューサーを配置することで、芸術性・企画性の高さを保ちながら、事業進行や収支管理を行う体制をとっています。

事業企画を担当する職員は、音楽専門ホールであるとともに、地域の中核施設であることを意識し、公演、人材養成、普及啓発など幅広く専門性を発揮できるよう、横浜市芸術文化振興財団での専門人材研修等により専門性を磨いています。

さらに事業企画グループ内に広報担当を配置することで、企画と発信を両輪で回し、館のプレゼンス向上を図っています。



■財政面

横浜みなとみらいホールの主な収入は、指定管理料収入、施設利用料金収入、入場料等収入、助成金・協賛金収入です。可能な限り指定管理料に頼らない事業実施に努め、施設利用料収入を確保するために、自主事業の割合を3割程度に抑えることで収支のバランスを保っています。さらに本助成をいただくことで、人材育成事業等、収益化の難しい事業の実現が可能となっています。今後も、様々な助成制度の活用や企業協賛金の獲得のほか、年間事業全体での収支バランスを調整し、継続的に芸術文化振興に寄与する事業展開をはかります。

■ネットワークの構築

全国公立文化施設協会、神奈川県公立文化施設協議会加盟。全国の組織とネットワークを構築しながら、事業の連携を行うと共に、地域については、一体的な広報や回遊性を高め、各施設の認知度を向上させる事業を実施するほか、危機管理の情報共有等で連携を図っています。

地域：一般社団法人横浜みなとみらい21、公益財団法人横浜市観光協会、みなとみらい21ミュージックシティ推進委員会、クイーンズスクエアイベント実行委員会、株式会社横浜国際平和会議場

教育機関：横浜市教育委員会、東京藝術大学、神奈川大学、フェリス女子大学、昭和音楽大学、洗足学園音楽大学、東洋英和女学院大学、武蔵野音楽大学等、一般社団法人日本オルガニスト協会

文化施設：神奈川県民ホール、神奈川県立音楽堂、KAAT 神奈川芸術劇場、東京芸術劇場、サントリーホール、横須賀芸術劇場、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館、堺市民芸術文化ホール、大和高田さざんかホール、多治見市文化会館等

○教育委員会との連携

横浜市教育委員会と提携し、市立小学校・特別支援学校等の4~6年生を対象に、平成10年から毎年約30,000人の児童が横浜みなとみらいホールに来館し、プロのオーケストラによる演奏を聴く機会を提供しています。